

7. 1. 日仏国際共同研究 CREST-ANR NARRABODY 1st Meeting

3月7-8日 フランス・リヨンにおいて、日仏国際共同研究 CREST-ANR NARRABODY 1st Meeting が開催されました。

CREST：国立研究開発法人科学技術振興機構による戦略的創造研究推進事業

ANR：The French National Research Agency (ANR)

NARRABODY：Narrative embodiment: neurocognitive mechanisms and its application to VR intervention techniques（ナラティブ・エンボディメントの機序解明とVR介入技術への応用）

<https://www.kio.ac.jp/nrc/2024/03/15/13344/>

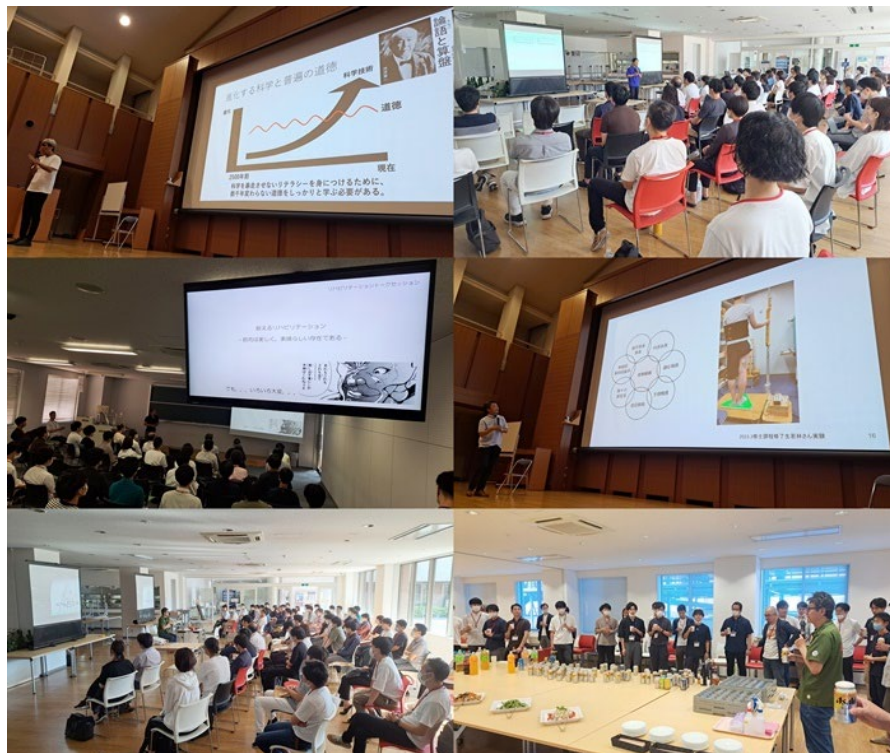


7. 2. リハビリテーショントークセッション#リハセッションを開催

2023.7.29 土曜日に、畿央大学 開学 20 周年 記念としてニューロリハビリテーション研究センター主催の「リハビリテーショントークセッション#リハセッション」を開催しました。

これまでの“ニューロリハビリテーションセミナー”とは異なるスタイルに進めようと意図したところがありまして、さまざまな知見の背景にある部分を大いに語り合いました。今回は、コロナ前に実施していたニューロリハセミナーよりも少なかったですが、むしろそれが功を奏して、参加された方々と非常に密接な関係を築くことができたと思います。

- ① 10:00-10:45 共生するリハビリテーション (教授 松尾 篤)
- ② 10:45-11:30 感じるリハビリテーション (准教授 大住倫弘)
- ③ 11:30-12:15 ゆらぐリハビリテーション (准教授 岡田洋平)
- ④ 13:30-14:15 繋がるリハビリテーション (教授 冷水 誠)
- ⑤ 14:15-15:00 鍛えるリハビリテーション (准教授 前岡 浩)
- ⑥ 15:15-16:00 映すリハビリテーション (准教授 信迫悟志)
- ⑦ 16:00-16:45 奏でるリハビリテーション (教授 森岡 周)



7. 3. 第3回 痛みのニューロリハビリテーション研究会を開催しました

2023.8.23 に 第3 痛みのニューロリハビリテーション研究会を開催しました。

「痛みを有する症例の身体知覚・認知にかかわる脳機能とリハビリテーション」

<https://www.kio.ac.jp/nrc/2023/08/28/blog-4/>

「痛みを有する症例に生じる身体知覚・認知の特徴」 畿央大学 大住倫弘

「身体知覚・認知の異常をもたらす脳メカニズム」 名古屋大学 吉田彬人

「身体知覚・認知の異常に必要なリハビリテーション手続き」 甲南女子大学 壬生 彰

臨床症状，その脳メカニズム，そしてリハビリテーション手続きまで系統立ってディスカッションできたのではないのでしょうか。特に，巷で実施されている触覚識別タスクについての実際と効果を生み出す要因について細かくディスカッションできたのは嬉しかったです。単なる体性感覚のトレーニングではなく，痛みからの注意そらし，外的刺激への暴露というのは非常に重要な要素ということもとても理解できました。

身体知覚・認知の異常を もたらす脳メカニズム

名古屋大学大学院医学系研究科
作業療法科学
吉田彬人

身体知覚・認知の異常に必要なリハビリテーション手続き

甲南女子大学看護リハビリテーション学部理学療法学科
壬生 彰



7. 4. 第3回 発達科学と小児リハビリテーション研究会を開催しました

2023.12.2にWEB上で「第3回発達科学と小児リハビリテーション研究会」を開催し、121名もの沢山の方々にご参加いただきました。第3回では、乳幼児期の感覚運動発達についてシミュレーションと実計測を融合した構成論的発達科学研究を実施されている金沢星慶先生（東京大学大学院）と神経発達障害のある子どもたちの協調運動技能障害（発達性協調運動障害）に対する実践的なリハビリテーション研究を実施されている東恩納拓也先生（東京家政大学）、そして当研究センターの信迫悟志（畿央大学）から話題提供が行われました。ディスカッションタイムでは、儀間裕貴先生（東京都立大学）と浅野大喜先生（日本バプテスト病院）にもゲストコメンテーターとして加わって頂きました。金沢先生には、皮質脊髄路に焦点をあてた運動制御の発達から始まり、要素還元論の限界から非還元論としての構成論的発達科学の必要性和その実際、最後に感覚運動ワンダリング研究のお話と、最初から最後まで「面白い!」としか例えようがない話題提供をしてくださいました。東恩納先生からはDCDにおける機能面ではなく、活動・参加レベルに焦点を当てることの重要性、ガイドラインに沿った介入・効果検証までの道程、各種評価法、集団アプローチ、そしてご自身の介入研究成果とまさにテーマに掲げて頂いたDCDに対する実践的アプローチの現在について情報提供いただきました。小児リハに携わる研究者、臨床家にとって、学びの多い研究会になったものと思います。



WEB開催 2023年12月2日（土）13:00-16:00
第3回 発達科学と小児リハビリテーション研究会
— Third GIG —

病態理解研究 × 構成論的発達科学 × 実践的アプローチ



畿央大学大学院
健康科学研究科
信迫悟志 (PT, PhD)



東京大学大学院
情報理工学系研究科
金沢星慶 (PT, PhD)



東京家政大学
健康科学部
東恩納拓也 (OT, PhD)

ゲストコメンテーター：儀間裕貴（東京都立大学） 浅野大喜（日本バプテスト病院）



儀間裕貴
Takuya Higashinaka
Hoshinori Kanazawa
浅野大喜
儀間裕貴 (東京都立大学)